

【授業前の準備】

- ・宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておいてください。
- ・筆記用具など忘れ物がないかを確認し、忘れ物があるときは受付へ相談しに行きましょう。
- ・スマートフォンなど音が出る機器はサイレント（無音）モードにするか、電源をオフにしましょう。

【授業の受けかた】

- ・飲み物は飲みたいタイミングで飲んでかまいません。食べ物アメやガムをふくめ禁止です。
- ・お手洗いにいきたくなったときや体調が悪いときは、遠慮せず手をあげて申告してください。
- ・授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。（私語、不規則発言、机えのつつぷし、居眠り、イスあそび、テキスト立て、ペン遊び など）
- ・途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。（問題文への線引きや図形問題の条件等は書きこんでかまいません）
- ・とくに指示がある場合をのぞき、板書の内容はすべてノートにとるようにしましょう。

【クラス共通の宿題】 第1回～第8回

(1) 授業で実施した問題 ×問再実施（基本問題・練習問題）

(2) 基本問題の残り 全問を実施

(3) 確認テスト「確認テストの進めかた」を守って実施

(4) コンプリーション 1週あたり2単元ずつ実施（4ページ×2）

【コンプリーションについて】

☆ 「基本チェック」「実力アップ」いずれかについて、週に2単元ずつチェックテストを実施します。

- ・各単元2問以上ミスした場合、「×問の解き直し（覚え直し）」「残りの問題すべて」が居残り実施になります。（居残れない場合は相談してください）

☆ すでに実施済みの場合でも、知識の最終確認を兼ねて各単元すべてのページを実施してください。（テスト範囲とはしませんが、冒頭2ページの知識穴埋めもふくみます）

☆ とくに不安を感じる単元は、過去の新演習の「学習の要点」の読みこみを実施しましょう。

→ 途中入会等で新演習を持っていない場合は、受付で借りられます。（持ち帰りはできませんので、自習スペースを利用してください）

☆ 授業では「知識を使った問題（条件整理・思考・計算）」を中心に扱いますので、知識に不安がある場合はコンプリーションを徹底的にやりこみましょう。

(5) 志望校の過去問（週に1回分以上が目安） / 受けた模試の解き直し

☆ 志望校の過去問は裏面の「過去問の進めかた」を参考に進めてください。

☆ 外部模試は、「合格ワンテスト」または「合不合判定テスト」のいずれかの受検でかまいません。

☆ 解説を見ても理解できない問題は、実施時点では「捨て問」としてください。（過去問と同様に印分けを実施/取れる問題を「取り切る」訓練という意識でのぞみましょう）

後期授業を受講する中でだんだんと力がついていきます。
12月以降に×問の総復習を指示する予定ですので、そのさいに「捨て問」とした問題も再度取り組んでみましょう。

☆ 模試の解き直しも「過去問ノート」に実施してください。

【任意課題】

(6) 塾技理科（市販教材） ※ 実施推奨（目標）アタックテスト偏差値60～

☆ 実施する場合は、12月ごろまでに「1周目」「×問2周目～」を完了するペースを目標に進めてください。

(7) 練習問題の残り 全問を実施（授業実施回） ※ 実施推奨（目標）アタックテスト偏差値65～

【家庭学習を実施するうえでの注意点】

- ・それぞれの教材の演習はなるべく教材ごとにノートを分けて実施・提出してください。（確認テストは添削用紙へ実施/過去問・模試の解き直しは「過去問ノート」をつくって実施）
- ・すべての課題について、「○つけをする」「×問は解説を確認して、なおしをする」「×問を自力で解けるまでもう一度解き直す」までが宿題です。
- ・「クラス共通の宿題」は、理科が得意な場合は3h～/週、苦手な場合は5h～/週必要な想定です。（アタックテスト偏差値55～を目指した課題内容になっています）
入試のためには必須の内容ですので、予め必要な時間を週の学習計画の中に組み込んでください。

【確認テストの進めかた】

- ① 名前を書く。
- ② 計算問題や条件整理が必要な問題は確認テストの余白へ途中式や図を書きながら解き、解答も確認テストへ直接書きこみながら解き進める。
- ③ 解説冊子を確認して、○つけをする。
- ④ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正（直し）やメモをする。
- ⑤ ④で理解をした問題を、余白へもう一度解く。（自力で正解するまで解き直す）

※ 計算問題や条件整理が必要な問題は、用紙の余白へ入試担当者（添削課題は先生）に
伝わるような途中式・図などを残すことを心がけ、少なくとも答えはていねいに書きましょう。

中学受験理科 過去問の進めかた

【1】どれくらいの年度ぶん過去問演習を実施すればよいか

- ☆ 志望に入る学校の過去問は3回分以上を実施するのが理想です。
(学校ごとに出題のされかたや形式が異なるため)
ただし、明らかに合格点を取れる学校については、1回～2回でもかまいません。

※ 自学で進める内容が多くなるため、解説が詳しい「声の教育社」発刊のものを購入してください。

【2】過去問実施の計画について

- ☆ 過去問演習は解き直しを通じた実力アップも狙いの1つになります。

したがって、間違えた問題を十分に復習する時間を取ることも大切です。
解き直しに必要な時間も加味して、計画的に進めていきましょう。

※ 例) (12月上旬まで) 志望校の過去問3回分終了
↓
(12月上旬以降) 実施した年度の×問再実施 + 追加実施

模試等があり実施できない週も出てくると考えられますので、実施計画をおうちでよく話し合うようにしてください。

- ☆ ふつう高偏差値の学校の問題のまうが難しいため、それらは後半日程で実施をしてください。

実力との差が大きすぎる学校の過去問は、実施をしても実力向上の助けにはなりません。
歯が立たないと感じる場合は、地力向上の学習(テキスト・コンプリーションなど)を優先しましょう。

- ※ 状況により、「11月ごろまでは地力向上の学習を優先」「12月ごろから一気に過去問演習」
といったやりかたも考えられます。

進めかたに悩む場合は遠慮なく相談してください。

【3】過去問実施の流れ

- ① 科目別に、過去問専用のノートを作る (A4ノートがおすすめです)

- ② 解答用紙をコピーする (できれば問題用紙も)

→ 実際にテストする動き(書き込みなど)を意識して進めましょう。

- ③ 制限時間マイナス1～10分を目安にタイマーを設定する

→ 短い時間感覚に慣れておく方が、本番での確実性につながります。

- ④ 準備ができたら演習を開始

→ できれば、時間はおうちの人に管理してもらいましょう。(設定した時間を厳守してください)

- ⑤ すぐに採点

→ できれば、おうちの人に採点をしてもらいましょう。(採点が甘くなることをふせぐため)

- ⑥ 解答用紙を過去問ノートに貼りつける

- ⑦ 解答用紙を貼りつけた次のページに解き直しをする

1) 時間があれば取れそうな問題について、答えを見ずに再実施をする

2) 解説を見てわかる問題について、理解をできたら何も見ずに再実施をする。

3) 印分けをして、問題番号に印をつける。
(時間があれば解けた:△ 解説を見て自力で解き直せる:× 捨て問:☆ など)

4) テストの反省点を書き、繰り返さないための具体的な対策を考えノートに書いておく。

※ 実施・解き直しいずれも、取捨選択がとても重要です。(数問は「捨て問」としてとばして可)

→ 時間効率をよくするため、解説のほとんどが理解できない問題は「捨て問」としてとばしましょう。
(「あと少しで取れる」を取り切る学習を心がけてください)
捨て問が多くなりすぎってしまう場合は、過去問演習よりも地力強化の勉強を優先しましょう。

※ 時事問題の解き直しはさらっと(解説を読むだけ)で構いません。

※ 式を求められているのに書いていない、採点者が読めない字などは×になる可能性があります。
「入学したいという意味」が伝わる答案をつくることを意識しましょう。

《記述採点のポイント》

- ☆ 記述を採点するときは、正答になる「キーワード」が書けているかを見るようにしましょう。

例) 日本に四季がある理由

→ 地球が地軸を傾けながら太陽のまわりを公転しているから。

「地軸」「公転」がキーワードで、片方が書けている場合は△、厳しくつけるなら×にしましょう。
キーワードが入っていれば、細かな表現の違いはあっても○でかまいません。